

公益財団法人朝日新聞文化財団 2015 年度事業計画

(はじめに)

2015 年度の政府経済見通しは、消費税引き上げの影響による 14 年度のマイナス成長から、プラス成長に転じると見込むものの、依然として不透明な要素が根強い。

主に助成事業を賄う基本財産からの運用収入については、金融緩和による低金利が続く中で、預金利息部分は減少傾向が続いている。株式配当は、朝日新聞社からの新たな株式の寄付によって 14 年度は増加したが、本年度は前年水準の維持は難しい状況にある。

地域企業の支援が欠かせない大阪国際フェスティバルについても、会場のフェスティバルホール落成に伴って各種協賛金や集客が増加した「こけら落とし効果」は薄れてきている。

一方で、公益法人活動に対する社会の関心は高まり、当財団の諸活動への期待は着実に増している。以上の状況を踏まえて、本年度は以下の点を柱として事業計画を策定した。

- ① 助成財源の拡充を受け、文化財保護助成および芸術活動助成の強化を図る。戦後 70 年の節目の年に当たることから、助成趣旨に合った関連の活動への支援を手厚くする。東日本大震災関連の支援は継続するが、本来の目的にふさわしいものに絞る。
- ② 13 年度に再開した大阪国際フェスティバルをより地域に根付かせ、持続可能な事業としての基盤をより強固なものとしていく。
- ③ 公益性の観点を保持しつつ、いっそう効率のよい財団の運営に努める。

事業ごとに主な点を掲げると、次のとおりである。

1. 音楽会、美術展覧会等の事業に対する助成（定款第 4 条 1）

音楽祭、美術展覧会の開催等の芸術活動に対し助成する。15 年度実施事業の申し込みは、14 年 12 月 15 日に締め切り、15 年 2 月 4 日（美術分野）と 2 月 16 日（音楽分野）に開かれた芸術活動助成選考委員会で申請 376 件の中から 147 件に合計 2500 万円の助成を決めた。このうち被災地支援分は計 330 万円である。

なお、昨年途中から導入した WEB システムによる助成申請受付を本格化させ、15 年度はすべて WEB 受付のみに切り替える予定である。これによって事務の効率化を図り、

選考準備作業の質的向上や助成事業のフォローアップ・情報開示などを進めていく。

2. 文化財の保護等のための事業・活動に対する助成（定款第4条2）

人類共有の文化遺産を将来の世代に継承していくことを目的に、保護、保全等のための事業・活動に対して助成を行う。14年6月に申し込みを受け付け、9月の文化財保護助成選考委員会で50件の申請の中から複数年度事業を含めて30件、合計4700万円の助成を決定した。このうち被災地支援として9件計1534万円を助成する。また、過年度継続案件を含めた2015年度の助成予算は5550万円とした。

なお、今年度から芸術活動助成と同様、WEBでの申請受付を開始する。また、助成事業のフォローアップ活動を充実させていく。

3. 文化・学術等の向上に寄与した者に対する顕彰（定款第4条3）

芸術家、研究者等に対する顕彰を目的として朝日賞を贈呈する。近年の業績を主な対象に幅広く候補者を調査し、例年12月初めに開く朝日賞選考委員会で若干名選定する。

4. 音楽会等の公演の主催（定款第4条4）

第53回大阪国際フェスティバルをフェスティバルホールで15年4月から開催する。内容は4月18日オペラ『ランスへの旅』（アルベルト・ゼッダ指揮、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス）、22日大阪の4つのオーケストラが一堂に会する『大阪4大オーケストラの饗演』、9月23日新国立劇場こどものためのバレエ劇場『シンデレラ』、10月2日クリストフ・エッシェンバッハ指揮・ウィーンフィルハーモニー管弦楽団、11月25日ワレリー・ゲルギエフ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の各コンサートを実施する。このうち、『ランスへの旅』は大阪音楽大学、フェスティバルホール、藤原歌劇団、日生劇場との、「ウィーンフィル」はフェスティバルホールとの共催事業で、前者については文化庁の「劇場・音楽堂等活性化事業」として補助を申請している。

以上